



旭陽中校長室だより

NO.2

令和7年5月9日(金) 発行:大阪市立旭陽中学校長 辰巳千佳子

立夏（りっか）：5/5～5/9頃の節気（季節の変化を表す指標）で夏の兆しが見え始めるころを指す。

あっという間に春は終わり、初夏を感じさせる時期になりました。連休も終わり、1年生は入学して早や1か月が過ぎました。ちょうどこのころは疲れも出てくるときです。晴れた日は日差しも強くなり、気温が急に上がります。生活リズムを整え、体調の管理に努めましょう。

国際理解と多文化共生社会

国際クラブの紹介

先週4月28日の全校集会で、イオの会の紹介のあと、指導してくださっている高己蓮（コキリヨン）ソンセンニムからご挨拶をいただきました。

大阪市内の小中学校には、様々な国にルーツやつながりがある生徒が、自分たちの国の文化や暮らし、言葉、歴史を学びあう「国際クラブ」が置かれています。ここで、自国の文化や伝統を知り互いに交流を深め、民族的アイデンティティを持つようになることを目標に学んでいます。

※民族的アイデンティティ・・・自分が属する民族に関して、確かに自分とのつながりがあるという意識をもち、さらにその自分が他者や社会から認められているという感覚

旭陽中学校には、2つの国際クラブがあって、1つは韓国・朝鮮にルーツがある生徒たちが集まる「イオの会」と、中国やそれ以外の外国にルーツがある生徒たちがあつまる「多文化学級」があります。「イオの会」は毎週火曜日の放課後に、東館3F放送室の隣の部屋で活動しています。多文化学級は学期に1回活動する予定です。

韓国・朝鮮の文化や言葉に興味がある、イオの会ってどんな活動しているのかな、多文化学級では今度いろんな国の遊びをすると聞いているけれど、見てみたい・・・など思った人はぜひ外国人教育主担の安本先生に声をかけてください。

●多文化共生社会の実現のために

コロナ禍明けから、日本にたくさんの外国人が訪れるようになりました。日本で仕事をして生活するために来日した人たちもが多数おり、外国人労働者数は2024年10月末時点で、230万人2587人（厚生労働省発表）だそうです。都道府県別でみると、大阪府は17万4699人で全国で第3位となっています。そして、家族の仕事に伴って来日し、小中学校に編入する児童生徒がかなり増えました。旭陽中学校は「日本語指導が必要な子どもの教育センター校」に指定され、近隣の中学校に通う来日生徒がたくさん来校し、日本語を学んでいます。

学校生活において、外国にルーツがある人と触れ合う機会がどんどん増えてきて、身近なところで国際交流が行われています。こうした現状を踏まえて、多文化共生社会の実現が求められています。

一方でSNSなどでは偏った情報や、偏見・差別的な発言が発信されたり、それによって刺激された人が街頭でヘイトスピーチを行ったりした例があります。

身近なところでは、児童生徒同士がけんかになったときに、外国にルールがある人に対して、「〇〇（国名）に帰れ！」「オマエの国、（戦争やってて）怖い国やな。だからオマエも怖いやつなんや」などといった言葉、容姿に関する差別的なことばを発するということがありました。

こうした、差別的で人を傷つけるような言葉、その人の存在を否定するような言葉を言われた子の気持ちはどうでしょうか。多文化共生社会の真逆をいくような話で、そのような発言は許されることではありません。



日本では平成28年6月3日に「ヘイトスピーチ解消法」が制定され、差別や偏見の不当性・不合理性について、こうした言動は許されないものという意識が社会の中に広まっています。

※ヘイトスピーチ・・・特定の国の出身者であること又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようしたりするなどの一方的な内容の言動（出典：法務省HP）

政治の世界と、共に生活している人たちとの人間関係とは厳しくはっきりと区別し、差別や偏見を持たないこと、インターネットやSNSを介して、外国につながる人への差別や偏見につながる書き込み等が横行している現代社会で、何が正しくて、何が間違った情報なのかを考えられる力、取捨選択する力を持つことは、とても大切です。

*

多文化共生社会とは、民族的・文化的背景の異なる一人ひとりが、ちがいをちがいとして認め合い、民族的アイデンティティを尊重しあえる社会のことといえます。その社会に必要な視点の一つとして、「リスペクタンス」があります。

リスペクタンス (RESPECT+DISTANCE)

※RESPECT(尊敬)+DISTANCE(距離)の造語

ちがったままの距離感で尊敬・尊重しあう

(出典：大阪市教育委員会「学力の基礎としての人権教育～多文化共生～」)

「自分の知っている文化」とは違うものに対して、直接的・間接的に交流する活動を通じて、違いの面白さや良さを感じ取り、理解を深めること、違いはそのままで、互いに尊重・尊敬しあい対等な関係をつくっていくことが必要です。

この先高校や大学、社会に出てからも学ぶ機会はたくさんありますが、中学校生活の中で、同じ仲間としてお互いに学習し、自分のこと、相手のことをよく知って尊重しあう基本的な態度を身につけてほしいと思います。教科書の勉強だけでなく、自分たちの内面を成長させるような勉強もしっかりしていきましょう。

